



高松 正毅 教授

【たかまつ まさき】

専門は日本語学・言語学。「日本語概説」「文章表現Ⅰ・Ⅱ」「論文作法Ⅰ・Ⅱ」を担当。「新選組」と「白虎隊」を愛する。尊敬する人物は「榎本武揚」「土方歳三」ら多数。嫌いなものは「薩摩と長州」。誓いの言葉は「臥薪嘗胆」「捲土重来」。入場テーマ曲：「アイ・オブ・ザ・タイガー（サバイバー）」、「セパレート・ウェイズ（ジャーニー）」、「ターミネーターのテーマ」。

- 日本語概説
- 文章表現Ⅰ・Ⅱ
- 論文作法Ⅰ・Ⅱ

文章を書くことをいかに教えるか

研究テーマ

私の専門分野は「日本語学」、つまり日本語という言葉の研究する学問です。日本語を研究するといっても、丸ごと全部を一気にとらえることはできませんから、音声・音韻、文字・表記、語彙、文法など、特定の側面からアプローチするのが普通です。

元々は、現代日本語の動詞の格支配の研究から入り、日本語の慣用表現、日英語の対照、加えて、日本語日本文学の研究史を専門にしたいと考えました。今でも、本居宣長をはじめとする国学者や、新井白石ら漢学者の著作を読み込むのは本当に楽しいです。

現在は、文章の書き方の効果的な教授法（学生諸君から見れば練習法・鍛錬法）を研究中です。文章を書くには、それ以前に文章が読めなければなりませんから、文章を読むことも非常に重要です。この読み書きの領域を、大学教育ではリテラシーと言います。最近ではさらに用法が広がって、情報リテラシーやコンピュータ・リテラシーのように用い、自在に使いこなせる能力のことを意味します。

大学で学ぶに必要なレポートや論文を書く力は、スタディ・スキルズやアカデミック・リテラシーの最も重要な核となる部分ですから、最近では大学教育そのものが、私の専門のようになってきました。

担当科目とゼミナール

担当科目は、日本語学の概論に当たる「日本語概説」、文章の書き方を教える「文章表現Ⅰ・Ⅱ」「論文作法Ⅰ・Ⅱ」です。他に、「論文の読み方・書き方」を担当する先生方とチームを組み、私が代表責任者として授業展開を考えています。

ゼミナールの研究テーマとしては「言語表現技術」を掲げています。しかし、「技術」だけを切り離して身につけ、向上させることはできません。口頭でせよ文書でせよ、言語はツールに過ぎませんから、コンテンツ（内容）が必要です。そのコンテンツは、学生諸君の一人一人が自力で創ることになります。研究テーマは完全に自由。ゼミナールでは、私は単なる支援者に過ぎません。

経済大学の経済学部にも所属しながら、経済・経営以外の分野で真剣に卒業論文を書きたいと考える人の入ゼミを待っています。

高松ゼミは、好きなこと（他のゼミでは研究できないテーマ）を自由に学べるゼミです。自分でペースを作る自主性や積極性が求められ、行き詰まっても自力で解決しなければなりません。やりたいことがはっきりしており、アニメやフィギュアなどのサブカルチャーをはじめ、さまざまなことに好奇心旺盛な人にピッタリのゼミです。

高松ゼミ9期生（2011年卒） 藤澤 桃美

ゼミ生のひとこと

